

2023年技能五輪国際大会 基本構想

2017年3月



はじめに

技能五輪国際大会は、22歳以下の青年技能者が約50職種の競技で卓越した技能を競い合う技能の祭典であり、約60カ国・地域から約1,200名もの若者が参加しています。

本県では、2014年度に開催した「技能五輪・アビリンピックあいち大会」の成果と感動を踏まえ、次代の若者にもものづくり技能を継承し、技能尊重機運をさらに高めるため、2019年度の技能五輪全国大会、2020年度の技能五輪全国大会・全国アビリンピックを本県で連続開催いたしますが、さらに、こうした取組を大きなムーブメントとするため、2023年技能五輪国際大会を本県に招致したいと考えています。

愛知県は、製造品出荷額等が38年連続全国一のものづくり県であり、技能検定合格者は延べ33万人を超え、技能五輪全国大会では12年連続で最優秀技能選手団賞を獲得しています。しかし、経済のグローバル化や少子高齢化が進む中、本県の産業競争力を一層強化していくために、ものづくり愛知を支える産業人材の育成・確保は、大きな課題であると考えています。

技能五輪国際大会は、技能や職業教育の重要性を知らしめるムーブメントでもあり、主催者であるWSI(ワールドスキルズインターナショナル)では、「技能の力で世界を発展させる」というビジョンを掲げています。ものづくりで日本をリードする産業首都あいちが、国際大会の開催を通じて、技能を普及・発展させるムーブメントを起こしていくことは、本県の産業と人財力を成長させ、世界にアピールするまたとない機会になるものと思います。

このたび策定した基本構想では、テーマを「技能をめぐる対話(Dialogue over Skills)～創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展～」と掲げ、国際大会にふさわしい競技環境と参加者の思い出に残るおもてなしを提供するとともに、観客の皆様に競技を分かりやすく伝える工夫をするなど、参加体験価値の拡大と技能競技大会の社会的価値の拡大に貢献したいと考えております。

日本及び愛知における「ものづくり」と「技能の価値」の発展のため、関係者の皆様と一緒に、2023年の技能五輪国際大会の招致を実現させたいと心から願っています。

2017年3月

愛知県知事
大村秀章



目 次

1 日本及び愛知に招致する理由、意義	02
2 大会基本コンセプト	07
3 開催時期	11
4 開催場所	12
5 事業構成	14
6 技能競技(Skills Competition)	17
7 公式行事(Official Event)	18
8 併催イベント(Special Event)	20
9 大会運営	22
10 広報コミュニケーション	24
11 ムーブメントとレガシー	28
12 推進組織	29
13 今後のスケジュール	30

<参考資料>

- 1 技能五輪国際大会
- 2 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会

1 日本及び愛知に招致する理由、意義

(1) WSI(ワールドスキルズ・インターナショナル)のビジョン

WSIとは

WSIは技能の卓越性と能力開発の世界拠点です。産業界、政府、団体、(教育訓練)機関の国際的な協力と開発を通じ、また草の根コミュニティプロジェクト、技能競技大会、知識交換を通じて、熟練技能者の恩恵と必要性を促進しています。世界の若年技能者たちに最高を競う場を設けることにより、若者、産業界、社会に技能教育訓練の重要性を示しています。

WSIは、世界中で職業教育や、技術、サービス指向の進路における技能の卓越性と開発のために代表して声を上げています。1950年以来、若者とその親、教師、雇用主に対し、未来は効果的な技能訓練制度にかかっているという意識を啓発してきました。現在、WSIは75を超える国と地域で45種類以上の技能を代表しています。若者、教育者、産業界と協力しながら、明日の職業のために、今日の人材育成に努めています。

技能競技大会は単なる競技大会ではありません。一つのムーブメントです。技能振興、キャリア形成、技能競技大会、教育訓練、国際協力と開発、調査研究という6つの主要分野で取組を行うことにより、技能の卓越性と能力開発の世界拠点となることを目指しています。現在、国、地域、世界レベルで様々な活動が進行中です。ワールドスキルズ財団は自立した活動を支援し、構築するため、革新やパートナーとの協力の可能性を明らかにするプロジェクトや構想に協力しています。

WSIの理念と使命

ビジョン

技能の力で私たちの世界を発展させる。

使命

技能者への注目と認知を高め、経済的成長と個人的成功の達成における技能の重要性を示すこと。

ポジション

技能の卓越性と能力開発の世界拠点。

WSIの事業領域

技能振興

教育者、政策立案者、産業や他の機関が価値を再定義し、技能の魅力を向上させる技能の権威ある拠点や情報資産の宝庫。

キャリア形成

若い腕の良い技能者達が成功を積み重ね、次世代の技能労働者が、技能の可能性や重要性を発見するよう応援するための知恵と手段にアクセス出来るネットワークを提供。

技能競技大会

国際レベルの技能の卓越性を紹介し、活気を与えるために、技能競技大会は、世界中で開催され、多様な熟練を要する仕事を若者に紹介する。

教育訓練

未来の労働人口に需要の高い技能を獲得させる、新しく革新的な教育訓練方法を開発する教育者や産業のための手段。

国際協力と開発

若者や教育者、産業、政府が出会い、学び、共に技能を開拓出来る世界的なプラットフォーム。

調査研究

世界の技能についての最新情報や、事実、統計、ニュース。

(2)日本及び愛知に招致する理由、意義

①ものづくり王国・愛知(受け継がれてきた創造の歴史)

日本は、「ものづくり」を通じて高度成長を実現してきました。付加価値の高いものづくりと、その背景にある技術力は、日本の大きな特色として世界に広く認知、評価されており、今も日本経済の活力の源泉となっています。

中でも愛知県は、その中心地であり、窯業、木工、発酵・醸造、織物など古くから多彩な産業が発展し、形を変えながら現代まで継承されています。近代に入ると繊維産業を中心に発展し、続いて工作機械や一般機械、航空機産業も発展を遂げました。戦後は、自動車産業が興隆し、基幹産業へと成長したほか、国産ジェット旅客機(MRJ)、ロケット等の航空宇宙産業、ロボット産業、炭素繊維を始めとした素材産業など、世界最先端の産業を生み出し続けています。

2013年度の愛知県の経済規模(GDP)は世界28位に相当し、デンマークと同規模の水準を誇っています。また、2014年の愛知県の製造品出荷額等は43兆8,313億円と第2位の神奈川県(17兆7,211億円)を大きく引き離し、1977年から38年連続して全国1位となっており、日本のものづくりを牽引しています。

②職業訓練と国際貢献の実績

日本の高度なものづくりと技術力を支えているのは、独自の企業内職業訓練システムと言っても過言ではありません。愛知県は、企業等による職業訓練の先進地でもあります。

認定職業訓練校はおよそ100校あり、技能検定合格者は延べ33万人を超え、技能五輪全国大会では12年連続して最優秀技能選手団賞を獲得しています。

また、2016年4月に開校した愛知県立愛知総合工科高等学校では、3年制の本科に加え、全国初となる公設民営による2年制の専攻科を併設し、企業や大学と連携した職業教育訓練に取り組んでいます。

さらに日本は、職業訓練を通じた国際貢献にも取り組んでいます。JICAを中心とした人材派遣、退職した技能者による職業訓練等は、特にアジア圏の技能レベルの向上に貢献しており、WSIが提唱する職業訓練を通じた人材育成と国際協力のモデルを実践しています。

③あいちの産業観光

産業集積を生かした産業観光も愛知県の魅力の一つです。繊維機械と自動車の技術の変遷を通して日本の産業技術史を紹介する「トヨタ産業技術記念館」や、近代陶業発祥の地であるノリタケ本社敷地内に設置された「ノリタケの森」、東海道新幹線を中心に、蒸気機関車から超電導リニアまでの展示を通して高速鉄道技術の進歩を紹介する「リニア・鉄道館」などの産業観光施設が大きな人気を集めているほか、インバウンド向けの産業観光プログラムが積極的に開発されています。

また、世界で8番目となる「レゴランド」が2017年4月にオープン予定となっているほか、隣接する岐阜県と三重県との観光連携に加え、中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等が協働して推進する「昇龍道プロジェクト」も展開されており、愛知県の観光の魅力はさらに高まりつつあります。

④国際イベントの開催実績

（安全・安心・快適なイベント運営、多様性と持続可能性のメッセージ）

日本及び愛知県は、国際イベントの開催で大きな実績を有しています。特に愛知県では、世界デザイン博覧会、世界インダストリアル・デザイン博覧会、2005年日本国際博覧会（愛・地球博）、生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）、持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議など、様々な国際イベントを開催し、成功させてきました。

愛・地球博では、海外39か国の国家元首・首相等を含む世界139か国からの貴賓を、安全・安心・快適にお迎えしており、2016年のG7伊勢志摩サミットでも、テロの脅威が叫ばれる中、その玄関口としての役割を無事果たしました。

「自然の叡智」をテーマに開催された愛・地球博は、21世紀における国際博覧会の意義を再定義した博覧会として、博覧会国際事務局からも高く評価されたほか、COP10やESD世界会議では、現代のグローバル社会で大きな課題となっている地球環境問題に対し、「多様性の保全」や「持続可能な社会」という視点でメッセージを発信しました。

また、これらの国際イベントを通して培われた展示演出、コミュニケーションの技術も日本及び愛知県の大きな特色となっており、2010年のミラノ万博でも日本館が展示デザイン部門で金賞を受賞するなど、国際的な評価を得ています。

⑤MICEへの対応力

日本は、グローバルな都市間競争に対応し、MICE誘致力の向上に取り組んでいます。そして、愛知県の県庁所在地である名古屋市は、日本政府が推進するグローバルMICE戦略・強化都市に選定されています。

愛知県は日本のほぼ中心に位置し、24時間運行可能な中部国際空港、東京・大阪を結ぶ新幹線などの充実した交通インフラが整備されています。中心都市である名古屋市には国際レベルのホテルが集積しており、「なごやめし」と称される食文化、名古屋城などに代表される観光資源も国際的な評価を受けています。さらに愛知県では、中部国際空港に隣接する愛知県国際展示場の整備にも取り組んでおり、愛知県のMICE対応力はますます高まりつつあります。

⑥技能五輪全国大会の連続開催

愛知県では、2019年度は技能五輪全国大会を、2020年度は技能五輪全国大会・全国アビリンピックを開催することが内定しています。また、今後の全国大会についても、定期的に愛知県で開催することを提唱しています。

技能五輪国際大会を単発の国際イベントとして招致するのではなく、全国大会を連続して開催し、その相乗効果により国内外におけるムーブメントの形成に継続的に取り組むことは、技能五輪の発祥地であるスペインを除くと最多(4回目)となる日本開催への理解と共感の獲得につながるものと思われます。

開催年度	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
技能五輪 全国大会	第 52 回	第 53 回	第 54 回	第 55 回	第 56 回	第 57 回	第 58 回
開催地	愛知県	中央 (千葉県)	山形県	栃木県	沖縄県	愛知県	愛知県

2 大会基本コンセプト

(1)大会基本コンセプトの考え方

■WSIのビジョン

技能の力で私たちの世界を発展させる

技能はどのように世界を発展させるのか

技能を大切にすることで私たちはどのような社会を実現しようとしているのか

■日本及び愛知県に招致する理由、意義

愛知県に受け継がれてきた「技能」を尊重するDNAと「創造」の精神

様々な国際イベントで愛知県が発信してきた「多様性の保全」や「持続可能な社会」へのメッセージ

単なる競技大会でなく、一つのムーブメント

技能競技大会の知名度や関心をどのように高めていくのか

技能の力で世界を発展させるためのムーブメントに参加する関係者をどのように拡大していくのか

豊富な国際イベントで培ってきた展示演出やコミュニケーションの技術と安心・安全で快適なおもてなし

技能五輪全国大会の連続開催との連携による継続的、持続的な取組の可能性

■2023年技能五輪国際大会の方向性

技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場

産業都市・職業訓練先進地としての特色と、国際イベントの開催実績を生かし、技能競技大会の「参加体験価値」と「社会的価値」の拡大に挑戦する。

■対話と交流のテーマ

創造性

愛知がものづくりの歴史の中で育んできた果てしない創造の取組に着目しながら、創造の基盤となる「技能」の重要性を再認識するとともに、新たな時代の「ものづくり」と「技能」の関係性を探求する。

多様性

国籍、年齢、性別、障害の有無などを超え、多様な人々が「技能」を共通言語として協力し合うことの価値を共有するとともに、そこから生まれる新たなイノベーションの可能性を追求する。

持続可能性

地球温暖化、経済格差の拡大など、現代社会の持続可能性を脅かしている様々な課題に対し、「技能」は何をなし得るのか考察し、発信するとともに、技能競技大会の持続的な発展に貢献する。

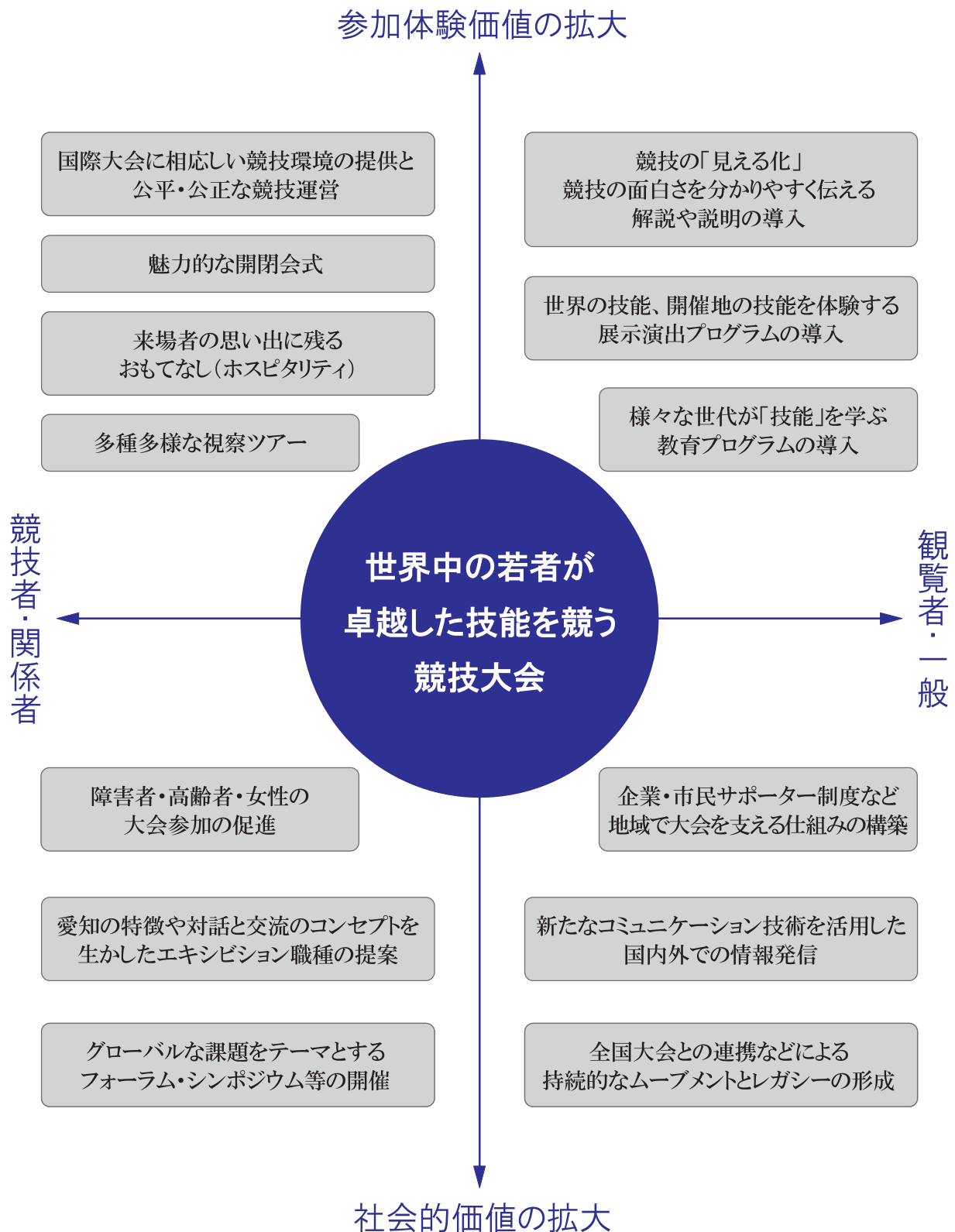
(2)大会基本コンセプト

「技能をめぐる対話 Dialogue over Skills」

創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展

- WSIの「技能の力で私たちの世界を発展させる」というビジョンのもと、技能五輪国際大会は若手技能者がその卓越した技能を披露する場として、大きな成果を上げてきました。職業訓練の重要性、技能者のキャリア形成、国際的な協調と開発などを推進するWSIの取組は、グローバリズムが進展し、地域間の経済格差、若年層の就業機会の確保等が大きな社会課題となるなか、さらに重要性を増すものと予想されます。
- 日本は、高度な技能に裏付けられた付加価値の高いものづくりにより、高度成長を実現してきました。そして、愛知県は、日本・アジアを代表する産業都市であると同時に、職業訓練の先進地であると言っても過言ではありません。日本の高度な技術力を支えてきた企業内訓練システムが国内外で大きな成果を上げているほか、新しいタイプの工業高等学校である愛知県立愛知総合工科高等学校を開設するなど、公的職業教育の充実にも取り組んでおり、WSIが提唱する職業教育訓練制度と国際的協調の先駆的モデルを形成してきました。さらに愛知県は、国際イベントの開催にも豊富な経験を有しています。日本政府と協力しながらMICEへの対応力強化に取り組んでおり、「多様性の保全」や「持続可能な社会の発展」など、技能とも関わりの深い今日的かつグローバルなテーマを世界に発信し続けてきました。
- 愛知県は、こうした産業都市・職業訓練先進地としての特色と国際イベントの開催実績、全国大会の連続開催への取組を生かし、2023年の技能五輪国際大会開催地に立候補いたします。特に、「単なる競技大会ではなく、一つのムーブメントである」ことを志向するWSIのビジョンと呼応しながら、技能五輪国際大会を、「技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場」へと進化させることを目指します。
- 愛知県は、ものづくりの歴史の中で受け継がれてきた「技能」を大切にすることで、時代を牽引する創造的な産業や技術を生み出してきました。「技能」はこれまでも、そしてこれからも、多様化する国際社会において共通言語であり続けます。創造性あふれる技能と、技能を媒介として多様な人々が協力し合うことにより、私たちの世界の持続的な発展を目指します。
- 日本及び愛知県は、世界中の若者達が卓越した技能を競い合う競技大会という技能五輪国際大会の中心的価値を尊重するとともに、その価値を、競技者・関係者はもちろん、観覧者や一般社会にも積極的に開いていくことで、技能競技の「参加体験価値」と「社会的価値」を拡大することに挑戦します。「技能をめぐる対話」というコンセプトのもと、新たな技能競技大会のモデルを提示し、WSIのビジョンの実現に貢献するとともに、その成果を広く国際社会と共有していきます。

(3)新たな技能競技大会モデルのイメージ



(4)大会基本方針

- ① 国際大会にふさわしい競技環境と公平・公正な競技運営を実現するとともに、産・学・行政・市民の連携により、競技者・関係者の思い出に残るおもてなしを提供します。
- ② 競技の見どころを分かりやすく伝える解説プログラム、世界の技能、日本・愛知の技能を体験する展示プログラム、誰もが楽しくものづくりに参加体験できる教育プログラムの導入により、観覧者の技能競技大会への参加体験価値を拡大します。
- ③ 「創造性」、「多様性」、「持続可能性」など、今日のかつグローバルな課題をテーマとする国際会議やエキシビション職種を実施することで、技能競技大会の社会的価値を拡大します。
- ④ 技能の価値を広く社会と共有するために、多様な主体による大会への参加機会を設けるとともに、放送と通信を融合する新たなコミュニケーション技術等を活用し、国内外に向けて大会の情報発信に取り組みます。
- ⑤ 愛知県が連続して開催する技能五輪全国大会とも連携しつつ、技能尊重機運の醸成に持続的・継続的に取り組むとともに、国内外に継承されるレガシーを追求します。

3 開催時期

2023年10月から11月の10数日間

WSI関係会議等(6日間)	開会式	競技(4日間)	閉会式	WSI関係会議
---------------	-----	---------	-----	---------

＜設定における留意点＞

1 気候が競技環境に最適な時期

温度、湿度ともに快適で、天候も比較的安定している4月～5月、10月～11月が望ましい。

2 技能検定及び技能五輪全国大会と重ならない時期

技能検定(例年6月～8月(前期)、11月下旬～2月(後期))や技能五輪全国大会(恒例的に11月後半)に重ならない時期が望ましい。

3 旅客系(ホテル、エアライン)稼働率の高くない時期

7月～8月など、旅客系の稼働率が高い時期は避けることが望ましい。

4 学生・生徒の参加可能な時期

課外授業の一環として、見学・参加が可能な時期が望ましい。(試験などの考査時期を除く。)

5 利用会場の活用可能な時期

大会会場候補の空港島の愛知県国際展示場は予定が決まっていないが、開閉会式会場の候補となる「ナゴヤドーム」及び「ポートメッセなごや」については、恒例行事(プロ野球など)と重ならない時期が望ましい。

4 開催場所

競技会場：「愛知県国際展示場」

開閉会式・パーティー会場：「ナゴヤドーム」又は「ポートメッセなごや」

＜競技会場＞

愛知県国際展示場(空港島)

開業予定：2019年秋

敷地面積：28.7ha

施設面積：建築面積8.6万㎡(内展示面積6万㎡)

屋外駐車場8.7万㎡ 約3,400台

多目的利用地4.4万㎡

アクセス：[鉄道]名古屋駅から乗換え無し28分

中部国際空港駅から連絡通路で直結

[車] 中部国際空港連絡道路・セントレア東ICから約1分



※イメージ図は、株式会社竹中工務店名古屋支店からの提案に基づく現時点でのイメージであり、今後、設計により変更される場合があります

● 競技会場：常設展示ホール60,000㎡＋屋外仮設建築物約40,000㎡

● 会議場・併催イベント・レストラン他：常設会議室、エントランスホール＋屋外仮設建築物

※ 常設展示場だけでは大会会場として面積が不足するため、屋外敷地に仮設建築物を設置

＜開閉会式・パーティー会場＞

ナゴヤドーム

施設面積：48,169㎡(内グランド面積13,400㎡)

収容人数：40,500人(スタンド)

アクセス：[鉄道]名古屋駅からナゴヤドーム前矢田駅(約20分)

[車] 東名高速・名古屋ICより約20分



(写真出典)「ナゴヤドーム」ウェブページ(<http://www.nagoya-dome.co.jp>)より

ポートメッセなごや

施設面積：36,282㎡(内展示面積33,946㎡)

収容人数：第3展示館・式典 約8,000人可能(着席)

第2展示館・パーティー 約3,600人可能(立食)

アクセス：[鉄道]名古屋駅から金城ふ頭駅(24分)

[車] 伊勢湾岸自動車道・名港中央ICより約5分

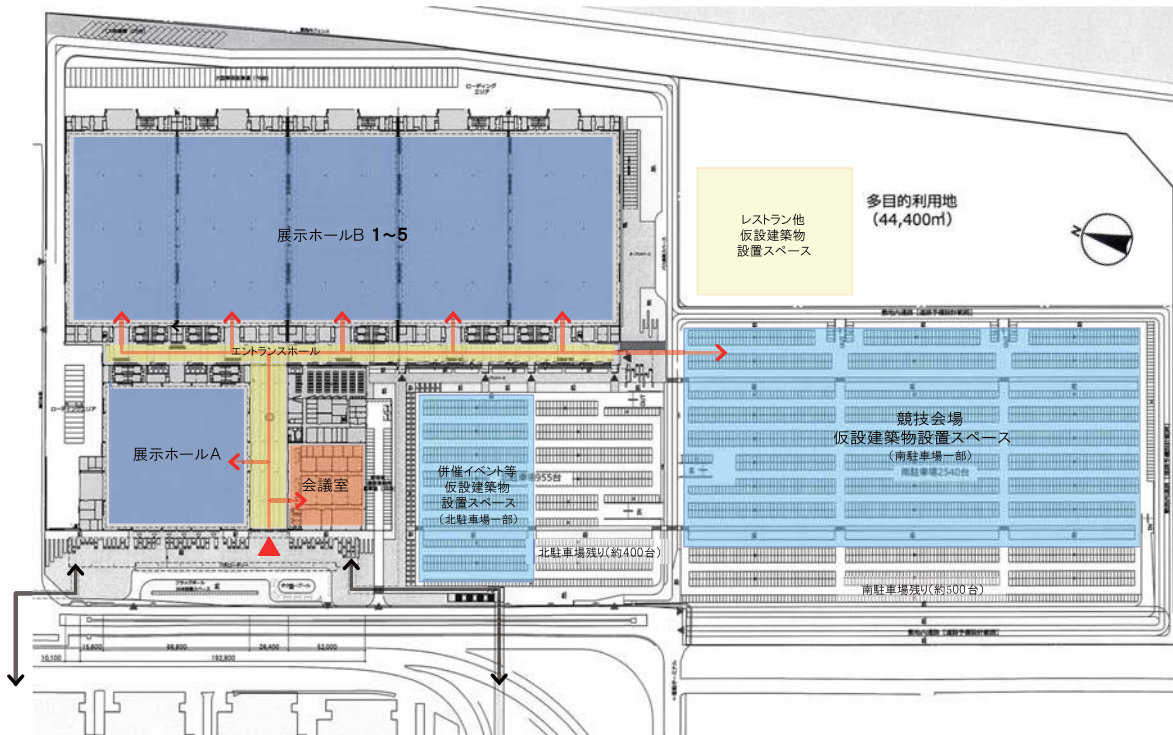


(写真出典)「ポートメッセなごや」ウェブページ(<http://portmesse.com>)より

＜会場利用イメージ＞



(C) 2017 Google



(出典) 愛知県振興部地域政策課大規模展示場準備室資料から作成

- 競技会場 ①: 展示ホールA(10,000㎡)
- 競技会場 ②: 展示ホールB1~5(計50,000㎡)
- 競技会場 ③: 仮設建築物(南駐車場: 約40,000㎡)
- 国際会議等 : 会議室(大中小18室)
- 併催イベント等: 仮設建築物、エントランスホール他
- レストラン他 : 多目的利用地
- 駐 車 場 : 北駐車場残り(約400台分/約13,000㎡)
南駐車場残り(約500台分/約10,000㎡)

5 事業構成

2023年技能五輪国際大会(以下、本構想では「愛知大会」という。)は、以下の事業で構成するものとします。

1) 技能競技 Skills Competition

- WSIの「大会組織に関する規定」に則り、愛知大会で実施する公式職種、デモンストレーション職種等を選定
- 愛知大会の対話と交流のテーマ(創造性・多様性・持続可能性)に基づくユニークなエキシビション職種の提案

公式職種・デモンストレーション職種

エキシビション職種

(競技会場イメージ)



2) 公式行事 Official Event

- 大会のテーマや地域の魅力を発信する開閉会式
- WSIの総会、理事会などに加え、創造性・多様性・持続可能性の観点から技能の未来を展望する国際会議を開催
- 世界中の競技者、関係者に、「あいちの産業観光」を満喫してもらう視察ツアーを提供

開閉会式(Opening and Closing Ceremony)

国際会議(Conference)

視察ツアー(Skills Tour)

(開会式イメージ)



3) 併催イベント Special Event

- 技能競技の面白さを伝えるとともに、様々な来場者が技能の魅力を参加体験できる対話形式のプログラムを展開
- 競技内容の面白さを伝える解説プログラム、世界、日本及び愛知の技能を体験する展示プログラム、様々な人が技能の価値を学ぶ教育プログラムを実施

解説プログラム(Skills Guide)

展示プログラム(Global Skills Village, Aichi&Japan Skills Showcase)

教育プログラム(Skills Labo, Junior Skills, Careers Advice, Open Skills)

(展示プログラム会場イメージ)



6 技能競技(Skills Competition)

(1) 基本的な考え方

国際大会にふさわしい公平・公正な競技運営を実現するとともに、創造性・多様性・持続可能性をテーマとするユニークな職種を愛知から提案します。

- 国際大会に相応しい競技環境の提供と、公平・公正な競技運営に努めます。
- WSIでは、「大会組織に関する規定」を定めており、愛知大会においても、同規定を踏まえた公式職種、デモンストレーション職種等の選定を行うとともに、「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマを踏まえたエキシビション職種等を愛知から提案していきます。

(2) 公式職種・デモンストレーション職種

公式職種、デモンストレーション職種については、過去の技能五輪国際大会における公式職種を踏まえつつ、WSIとの連携のもとに選定します。

新たな時代を捉えた新規職種の導入についても前向きに検討します。

(3) エキシビション職種

技能五輪国際大会では、公式職種に加え、公式評価対象外となるプレゼンテーション職種、エキシビション職種などが実施されています。

愛知大会では、「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマを踏まえ、愛知の特徴を生かしたユニークなエキシビション職種の検討・提案を行います。

創造性

- AI(人工知能)や3Dプリンターなど、次世代のものづくりにイノベーションを起こすことが期待されている技術分野に関する職種
- ロボット、航空宇宙など、愛知の特徴である先端技術に関する職種

多様性

- 障害者と健常者が協働して取り組む職種
- 国際アビリンピックを併催する場合には、国際アビリンピックとの連携による相乗効果にも配慮

持続可能性

- ソーラー発電、蓄電技術、水素燃料、炭素繊維、壁面緑化、水耕栽培など、地球環境の持続可能性に関連する職種
- 陶芸、絞り、盆栽など、愛知及び日本の伝統的ものづくり等に関する職種

7 公式行事(Official Event)

(1) 基本的な考え方

大会テーマや地域の魅力を発信する開閉会式に加え、技能の普遍的価値と未来像を展望する国際会議、あいちの産業観光を体験する視察ツアーを開催します。

- 開閉会式は、大会のテーマ、メッセージを発信する重要な機会となります。愛知大会では、開閉会式において、それぞれにテーマを設定し、「技能をめぐる対話」という大会コンセプトとともに地域の魅力を積極的に発信します。
- 併せて、「技能をめぐる対話」を体現する公式行事として、WSIの総会、理事会を始め、技能の未来を展望する多彩な国際会議を開催するほか、世界中から集まる競技者、関係者にあいちの産業観光を体験していただく多彩な視察ツアーを提供します。

(2) 開会式(Opening Ceremony)

ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」で使われる「山車」を起点に、愛知(日本)に受け継がれてきた技能の粋を表現

- 開会式については、「愛知に受け継がれてきたものづくりの伝統」を、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山車」を起点に演出することを想定します。
- からくり、自動織機、自動車、ロボットなど、時代とともに進化してきた「愛知のものづくり」を発信するとともに、その背景にある「技能」をアピールします。

(3) 閉会式(Closing Ceremony)

世界中の参加者が互いの健闘を讃えあい、友好を深める機会とするとともに、ダイバーシティ・コンセプトを表現するアトラクションを展開

- 閉会式については、世界中から集まった競技者や関係者が、互いの健闘を讃え、技能を認め合う、明るく友好的な、参加型のセレモニーとして開催します。
- 世界の技能の多様性を賞賛するとともに、全ての人々が就業機会を得て、生き生きと活躍できるダイバーシティ社会の実現をテーマとしたアトラクションを実施することで、次回の技能五輪国際大会へバトンを渡していくことを想定します。

(4)国際会議(Conference)

**WSIの総会、理事会等に加え、
技能のこれまでとこれからを展望する多彩な国際会議を開催**

- WSIの総会、理事会のほか、技能のこれまでとこれからを展望するディスカッションなど、多彩な国際会議を開催します。
- 特に、世界の技能者が自らの経験などを語るショートプレゼンテーション(Skills Talk)などを実施することで、「技能をめぐる対話」という大会コンセプトを積極的に追求します。

創造性

- ものづくりに関連する革新的な技術の登場と、それによる技能の今後の動向
- 技能者の創造性を生かす社会とは など

多様性

- 世界の技能の多様性とその価値の発見(世界中の技能者によるショートプレゼンテーション)
- 多様な個性のコラボレーションによるイノベーション実践例 など

持続可能性

- 新しい時代の環境技術と技能競技(新規職種の提案に向けて)
- 技能競技大会の持続可能な発展に向けた国際協調 など

(5)視察ツアー(Skills Tour)

**愛知の先端的な産業や職業訓練、
日本のものづくりの奥行きを体感する多彩な視察ツアーを提供**

- 世界中から集まる競技者、関係者などに、あいちの産業観光を体験していただく視察ツアーを提供します。
- 愛知のものづくりの現場を見学できる工場見学のほか、日本建築の粋を集めた名古屋城本丸御殿や、トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、リニア・鉄道館など、愛知県内の各種ミュージアムを巡るツアーを造成します。
- 併せて、隣接する岐阜県と三重県、日本の古都・京都を訪ねるツアー、昇龍道プロジェクトとの連携等による中部北陸地域に広がるツアーなど、日本のものづくりの奥行きを感じられるツアーを計画します。

8 併催イベント(Special Event)

(1) 基本的な考え方

愛知大会の特色として「競技の見える化」に取り組むとともに、技能の価値と未来に感動的に出会う多彩な対話形式のプログラムを展開します。

- 「技能をめぐる対話」というコンセプトを踏まえ、技能競技の面白さ、技能の持つ価値、技能の未来を幅広い人々と共有する対話形式のプログラムを積極的に展開します。
- 併催イベントは、一般の人には伝わりにくい技能競技のポイントや見所を分かりやすく伝える「解説プログラム」、世界の多様な技能と愛知が受け継いできた技能を体験する「展示プログラム」、そして、ものづくりの面白さを多くの人々、特に次代を担う子どもたちに伝える「教育プログラム」により構成します。

(2) 解説プログラム

競技解説 (Skills Guide)

- 技能競技の解説を行うガイド・プログラムを開発します。
- ガイド・プログラムでは、技能者による対面式の解説を重視すると同時に、スマートフォンやタブレットで利用できるセルフガイドも準備します。
- セルフガイドの開発にあたっては、情報関連企業等の協力を得ることも想定します。

(3) 展示プログラム

世界の技能 (Global Skills Village)

- これまでの技能五輪国際大会においても継続して実施されてきている「グローバル・スキルズ・ヴィレッジ」を愛知大会でも実施します。
- 「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマに即し、世界の参加国・地域が自国の技能を紹介するプレゼンテーション・ブースや、グローバルパートナー・ブースなどの設置も検討します。

日本・愛知の技能 (Aichi&Japan Skills Showcase)

- 日本及び愛知に受け継がれてきた技能を展示紹介します。
- 特に、愛知を中心とした中部地域の伝統工芸分野に着目し、熟練技能者による実演などを行うほか、日本及び愛知を代表する企業によるブース出展なども検討します。

(4)教育プログラム

技能入門プログラム (Skills Labo)

- 幅広い人々、特に次代を担う子どもたちに、体験を通じてものづくりの面白さを伝え、ものづくりへの憧れを醸成する技能入門プログラム(スキルズ・ラボ)を開発します。
- 技能者など、技能競技で取り入れられている職種の専門家と、アーティストやファシリテーターなどの協働により、これまでにない体験プログラムの開発を目指すとともに、プログラム開発を支援する企業スポンサー制度を取り入れるなど、新たな企業参加システムとすることも検討します。

ジュニア・スキルズ (Junior Skills)

- 次代を担う子どもたちに、人と競い合うことを通じ、ものづくりの楽しさや難しさを体験してもらう技能競技大会(ジュニア・スキルズ)の開催を検討します。

キャリア相談 (Careers Advice)

- 技能競技を通して様々な職種に興味を抱いた青少年層を主な対象として、その職種の仕事に就くためには何をなすべきか、アドバイスを行います。
- 実施にあたっては、公的機関や各職種団体等の協力を得ることを想定します。

職業訓練施設の公開、企業見学等 (Open Skills)

- 愛知県内の企業内職業訓練施設、公共職業訓練施設に協力を呼びかけ、職業訓練の現場を見学できるオープン・キャンパスを実施します。競技大会に合わせ、職業訓練の現場を見学、体験できる機会を設けることで、技能及び技能者への関心を高めるとともに、職業訓練の重要性を広く発信していきます。
- 併せて、愛知県内で工場見学などを実施している企業などに、愛知大会開催期間中の特別プログラムの提供を呼びかけ、一体的な広報を行います。
- 競技会場に隣接する中部国際空港でのボーイング787の展示施設や、県営名古屋空港に隣接の日本初の国産ジェット旅客機(MRJ)の製造工場、あいち航空ミュージアムの見学ツアーなどを検討します。
- 自動走行や燃料電池自動車(FCV)、ロボットなどの最先端技術を体感できるプログラムを検討します。

9 大会運営

(1) 基本的な考え方

ISO20121(持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム)を取得し、安全・安心・快適な競技環境を提供するとともに、地域総参加で競技者・関係者の思い出に残る「おもてなし」を提供します。

(2) 宿泊施設

公式参加者には、主に名古屋市中心部のホテルを活用

公式参加者の宿泊は、食事及び公式行事への参加、交通を含めたパッケージプランとして提供するように大会規定で示されており、サンパウロ大会の実績から約3,600室が必要になります。また、部屋のランクも対象者に応じて概ねの目安があり、これらの条件に適した部屋数・ランクのホテルが多くある名古屋市中心部を主に活用します。

一般来場者(観覧者)数は、サンパウロ大会の実績から1日当たり65,000人程度と想定され、そのうちの1割が宿泊を伴う来場とした場合、約6,500室が必要になりますが、名古屋市も含めたホテル群で対応可能です。

(3) 交通輸送

公式参加者には、シャトルバスを活用

一般来場者には、公共交通機関での来場を推奨

学生来場者には、団体用バスの受入れ環境を整備

公式参加者の交通手段は、期間中利用可能な特別バスによる公共交通機関の利用が望ましいが、宿泊場所によっては、乗り換えを要するため、確実な移動の観点からシャトルバスを活用します。

なお、サンパウロ大会の実績から、シャトルバスを活用する招待者を含む公式参加者は約8,000人程度と想定され、バスは最大、1日およそ160台必要となることが予想されます。

一般来場者(サンパウロ大会の実績から約26万人)の交通手段は、愛知県国際展示場の駐車場の不足が予想されるため、鉄道(中部国際空港駅)利用を推奨しつつ、別途、臨時駐車場(会場とシャトルバスで結ぶ。)の確保を検討します。

小中高校生及び特別支援学校等の学生来場(サンパウロ大会の推定から約5万人)は、各学校と会場を結ぶ団体用バスでの来場が想定され、250台必要となることが予想されるバスの乗降、待機場などの環境を整備します。

(4)安全対策

安全衛生、救急・救護、災害、犯罪への万全な対策を実施

競技会場には、中央労働災害防止協会（JISHA）の安全衛生診断を受けて、万全な安全対策を行います。

大会参加者等の怪我や疾病に備えて、会場への救護所の設置や、緊急搬送先協力病院との連携、消防の全面的な協力の下、競技期間中においては救急車の配置を検討します。

火災や災害の緊急時に備え、自衛消防隊を組織するとともに、地元消防署職員の常駐巡回と緊急車両の出動態勢を整え、さらに保安・立入制限の管理のため、会場の主要箇所に警備員を24時間体制で配置し、手荷物検査・金属探知機等の導入を検討します。

(5)おもてなしプログラム

競技者等休憩・交流スペース

- 競技者、関係者のための休憩・交流スペースを設けます。
- 特に、ケータリング・サービスの充実を目指します。ハラルフードなど、多様な文化に対応するほか、愛知の魅力発信の一環として「なごやめし」の提供を検討します。

一校一国運動

- 愛・地球博でも実践され、過去の技能五輪国際大会でも実施されている一校一国運動を導入します。
- 大会の開催を契機として、愛知県の若者が世界の多様な文化に触れる機会を創出するとともに、大会後にも継承される国際交流事業とすることを目指します。

サポーター

- 大会運営をサポートするボランティア制度を構築します。
- これまでの各種国際イベントの開催経験を踏まえ、参加者の主体性を生かしたサポート事業を考案していきます。
- 地元の大学生を活用した通訳ボランティアの養成を検討します。

多言語対応観光システム

- 大会開催に合わせ、愛知県の国際観光対応力を強化することを目指し、多言語観光システムの構築に取り組むことを検討します。
- ホテル、飲食店などでも利用できるよう、スマートフォンなどの普及端末を利用したシステムとすることを想定し、AI（人工知能）翻訳の実践の場とすることで、民間事業者の協力を得ることも検討します。

10 広報コミュニケーション

(1) 基本的な考え方

招致活動期間、開催準備期間を通し、技能五輪国際大会の知名度向上と社会的価値の発信に努めるとともに、放送と通信を融合する新たなコミュニケーション技術などを活用し、国内外への情報発信に努めます。

(2) 広報戦略の推進ステップと活動内容

招致活動期 [2017年～2019年]

技能五輪国際大会の知名度向上を図るとともに、招致活動に対する産・学・行政・市民の参加を促進します。

広報戦略の専門家等が参加する広報コミッティによる広報戦略の策定、招致活動への連帯を象徴する招致シンボルマーク、マスコットキャラクター等を策定するほか、県民向けシンポジウム、招致期間中の技能五輪全国大会・全国アビリンピックなどの機会を捉え、県民及び関係者に国際大会招致に取り組むことを周知します。

併せて、2018年のディスティネーション・キャンペーン、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、同年愛知県で開催するワールドロボットサミット、2025年の大阪万博の招致など、日本全体のMICE招致戦略とも連携しながら、経済団体、企業等による招致活動への参加と協力を要請していきます。

海外に対しては、2017年のアブダビ大会等において、主にWSI関係者に対し、愛知大会のコンセプト、愛知の魅力をPRするなどの招致活動を展開していきます。

国内広報

- 広報コミッティの設置（有識者等による広報戦略策定）
- 招致シンボルマーク、マスコットキャラクター等の策定
- 県民向けシンポジウム等の開催
- 技能五輪全国大会・全国アビリンピック等でのPR
- 日本全体のグローバルMICE戦略と連携したPR（2018年ディスティネーション・キャンペーンなど）
- 経済団体、企業等へのPR
- 各種広報ツールの制作
- 招致ホームページ・SNS等の開設と運用 など

国際広報

- WSI関係者に対する愛知大会のコンセプト、愛知の魅力のPR
- 国、民間などとの協力による招致活動の展開 など

開催準備期 [2019年～2023年]

愛知大会の開催決定後は、大会の開催に向けた準備活動を支援する広報コミュニケーションを展開します。特に、技能競技の社会的価値の発信に取り組むことで、技能の力で世界を発展させるムーブメントに参加する企業、団体、学校、市民等を拡大していくことを目指します。

国内においては、競技紹介映像の制作などにより、技能競技の魅力発信に努めるほか、2019年度の技能五輪全国大会と2020年度の技能五輪全国大会・全国アビリンピックの愛知開催のタイミングを生かした広報活動を推進します。協賛スポンサー、市民ボランティアの募集などはもちろん、併催イベントとして計画している解説プログラムや教育プログラムの先行開発と全国大会での試行など、新たな参加の仕組みを提案し、多彩な関係者の大会参加を目指します。

国際社会においては、「技能をめぐる対話」というコンセプトを実践するために、国際シンポジウムなどの先行開催に取り組みます。

併せて、2019年度・2020年度に愛知県で開催する技能五輪全国大会にWSI関係者やアジア諸国の技能競技関係者を招待することを検討します。技能五輪全国大会を技能に関する国際的な対話と交流の場として積極的に活用し、技能振興における日本の国際貢献を明確にすることを目指します。

国内広報

- 技能競技紹介映像等の制作
- 2019年度技能五輪全国大会と2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック(愛知開催)でのPR
- 2019年度技能五輪全国大会と2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック(愛知開催)への企業等参加促進 [解説プログラム・教育プログラム等の先行開発と試行]
- 2019年ラグビーワールドカップとの連携
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックとの連携
- 2020年ワールドロボットサミットとの連携
- 各種広報・告知ツールの制作
- 大会ホームページ・SNS等の開設と運用 など

国際広報

- 国際シンポジウムの先行開催
- 技能五輪全国大会へのWSI関係者やアジア諸国の技能関係者等の招待 など

開催期間 [2023年]

開催年となる2023年からは、愛知大会への集客促進を目的とした広報コミュニケーションを展開します。国内においては、日帰り旅行圏、宿泊旅行圏などを設定し、それぞれのエリアにおいて効果的、効率的な広報、広告宣伝を実施するほか、旅行代理店などによるツアー販売なども展開します。併せて、愛知県を訪れる世界のゲストに歓迎を伝えるウェルカムバナーの設置なども検討します。

開催期間中には、マスコミの取材拠点となるメディアセンターを会場に設置することを検討するほか、海外メディアに対する情報配信サービスとして、ミラノ万博でも実施された動画等のクラウド配信サービスを実施することも検討します。日本での現地取材が困難な参加国に対する大会情報の新たな配信手法として有効に機能させ、国内外における大会の情報発信を活性化させるとともに、放送と通信を融合する新たな取組とすることで、通信関連、情報関連企業の大会サポートを実現していくことを目指します。

国内広報

- 集客圏に応じた広報、広告宣伝活動
- 旅行代理店等を通じたツアー商品販売
- 来場者用プログラム等の作成
- ウェルカムバナーの設置
- メディアセンターの設置 など

国際広報

- 動画クラウド配信サービス(Skills Cloud)の提供
- 国際シンポジウムの開催 など

成果伝達期 [2023年～]

大会開催後は、大会の成果を関係者、一般社会、国際社会と広く共有するための広報コミュニケーションを展開します。

大会の成果をまとめた記録集などを作成することはもちろん、大会後に継承されるレガシーの一つとして、解説・教育プログラムなどの継承と普及、国際シンポジウムの継続開催、技能振興に貢献した個人・団体等を表彰する顕彰制度の創設などを検討します。

国内広報

- 公式記録集、公式記録映像などの作成
- 大会ホームページを活用した、インターネット上における記録保存
- 解説プログラム・教育プログラムなどの継承と普及 など

国際広報

- 国際シンポジウムの継続開催
- 顕彰制度の創設 など

11 ムーブメントとレガシー

(1)ムーブメントの形成

技能五輪全国大会との連携を生かし、多彩な関係者に対し、技能の力で社会を発展させるムーブメントへの参加を促進します。

- 国際大会に先立ち、全国大会を連続開催することのメリットを最大限に生かし、WSIが目指す技能の力で世界を発展させるムーブメントの形成に努めていきます。
- 特に、技能競技大会を、技能をめぐる豊かな対話と交流の場へ成長させようとする愛知大会のコンセプトを踏まえ、併催イベントとして計画している解説プログラム・教育プログラムの先行開発と全国大会での試行、技能のこれまでとこれからを展望する国際シンポジウムの開催などに積極的に取り組みます。
- また、これらの具体的な行動を通して、行政、経済団体、企業、教育機関、NPO/NGO、市民など多彩な関係者に対し、技能の力で世界を発展させるムーブメントへの主体的な参加を呼びかけていきます。

(2)レガシーの形成

技能競技の中心地としてのステータスを獲得するとともに、国内及びアジアを始めとした国際社会におけるムーブメントの拡大に貢献します。

- 愛知県は、上記の取組を通して、ものづくり王国・愛知、職業訓練先進地・愛知、産業観光都市・愛知としての地位をこれまで以上に確かなものにすると同時に、技能競技及び技能教育の中心地となることを目指します。
- 国内においては、全国大会の定期開催、愛知大会で開発する解説プログラム、教育プログラムの継承と普及などにより、技能競技の持続的な発展に貢献することを目指します。
- 併せて、技能を通じた国際協力に貢献することを目指し、技能に関する国際会議の継続的な開催、技能振興に係る人材育成セミナーの開催や研修生の受け入れ、国際的な技能振興に貢献した個人・企業等を顕賞する制度の創設などを検討します。
- 日本のものづくりの中心地である愛知県が、技能競技においても中心地となることで、日本のものづくりと技能を改めて世界に発信するとともに、技能の力により私たちの世界を発展させるムーブメントを国内外で拡大していくことを目指します。

<愛知の視点から>

ものづくりの発展

職業訓練の発展

産業観光の発展

<国内の視点から>

全国大会の定期開催

解説プログラムの継承・普及

教育プログラムの継承・普及

<国際貢献の視点から>

国際会議等の継続開催

人材育成セミナー等の開催

顕賞制度の創設

12 推進組織

(1) 基本的な考え方

招致期間、開催準備・実施期間に、それぞれ活動の中心となる推進組織を設置します。

技能五輪国際大会の招致においては、国が主体となることが求められています。愛知県としては、本構想をもとに国に開催提案を行うとともに、国として招致に取り組むことが決定した場合には、国とともに、大会の招致、開催準備、運営に取り組むことを想定します。

(2) 推進組織と活動内容

2023年技能五輪国際大会招致委員会（仮称）

- 国による愛知大会招致決定を受け、招致活動の主体となる招致委員会を設置
- 国、愛知県と関係自治体、関係機関、経済団体等により構成
- プロポーザルシートの作成及び招致活動 など

2023年技能五輪国際大会組織委員会（仮称）

- WSI総会における日本開催決定を受け、招致委員会を改組し、大会の実施主体となる組織委員会を設置
- 国、愛知県と関係自治体、関係機関、経済団体等により構成
- 大会の実施準備、大会運営、成果継承 など

13 今後のスケジュール

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
国際大会		(2021年開催国決定) アブダビ		(2023年開催国決定) カザン		(2025年開催国決定) 未定		(目標) 愛知	
全国大会	山形	栃木	沖縄	愛知	愛知	未定	未定	未定	
招致活動	2023年技能五輪国際大会 招致委員会(仮称)			2023年技能五輪国際大会 組織委員会(仮称)					
	招致調査	基本構想(県)	国による検討・招致決定	基本構想(国)	プロポーザルシート作成・提出	開催決定	基本計画	実施計画	実施準備
			解説・教育プログラムの 先行開発		全国大会における 解説・教育プログラムの試行		解説・教育プログラムの拡充		開催
				招致支援広報		開催準備広報		集客広報	

＜参考資料＞

1 技能五輪国際大会

(1) 技能五輪国際大会とは

「技能五輪国際大会」は、国際的に技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能労働者(満22歳以下)の国際交流と親善を目的に、2年ごとに開催されています。約60カ国・地域から約1,200名の選手が参加し、50職種程度の競技で技能を競う大会です。

(2) WSI(ワールドスキルズインターナショナル)とは

技能五輪国際大会の運営組織で、76カ国・地域の団体(2016年10月現在)が加盟しています。日本は、中央職業能力開発協会(JAVADA)がメンバーとなっています。

(3) 選手の参加資格

- 出場する競技大会の開催年に満22歳以下である者(一部競技職種を除く)
- 各国・地域1職種につき1名または1組
- 国際大会の日本代表選手の選考は、国際大会が開催される前の年に開催する技能五輪全国大会において行われ、参加資格を満たす優勝者(成績優秀者)が日本代表として選出され、技能五輪全国大会で実施されない一部の職種については、各業界団体等が選考会や推薦等により選出

(4) 技能五輪国際大会で実施する競技職種 [アブダビ大会]

ポリメカニクス	情報ネットワーク施工	製造チームチャレンジ	メカトロニクス
機械CAD	CNC旋盤	CNCフライス盤	石 工
ビジネス業務用 ITソフトウェア・ソリューションズ	溶 接	印 刷	タイル張り
自動車板金	航空機整備	配 管	電子機器組立て
ウェブデザイン	電 工	工場電気設備	れんが積み
左 官	広告美術	移動式ロボット	家 具
建 具	建築大工	貴金属装身具	フラワー装飾
美 容／理 容	ビューティーセラピー	洋 裁	洋菓子製造
自動車工	西洋料理	レストランサービス	車体塗装
造 園	冷凍空調技術	ITネットワークシステム管理	グラフィックデザイン
看 護	構造物鉄工	プラスチック金型	ビジュアル販売促進
試作モデル製作	建設コンクリート施工	パン製造	産業機械組立て
重機メンテナンス	3Dデジタルゲームアート※	貨物輸送 ※	

WorldSkills Abu Dhabi 2017 公式HPより引用 ※ アブダビ大会からの新規職種

(5) 開催実績

回	開催年	開催国	開催都市	参加 国数	参加 選手	日本 選手	日本メダル獲得数			愛知県 選手	愛知県メダル獲得数			金メダル獲得上位3カ国	備 考
							金	銀	銅		金	銀	銅		
1	1950	スペイン	マドリッド												初開催
2	1952	スペイン	マドリッド												2年連続2回目
3	1953	スペイン	マドリッド												3年連続3回目
4	1954	スペイン	マドリッド												4年連続4回目
5	1956	スペイン	マドリッド												5年連続5回目
6	1957	スペイン	マドリッド												6年連続6回目
7	1958	ベルギー	ブルッセル												初開催
8	1959	イタリア	モデナ												初開催
9	1960	スペイン	ヒホン												3年振り7回目
10	1961	ドイツ	デュースブルグ												初開催
11	1962	スペイン	ヒホン	10	199	8	5	1		1	1			①スペイン②日本	2年振り8回目
12	1963	アイルランド	ダブリン	12	227	14	10		2					①日本②アイルランド③西ドイツ	初開催
13	1964	ポルトガル	リスボン	12	199	17	12	4		1	1			①日本②イギリス③ポルトガル、スペイン	初開催
14	1965	イギリス	グラスゴー	11	200	19	6	5	2	2			1	①イギリス②日本③スペイン	初開催
15	1966	オランダ	ユトレヒト	11	212	20	9	3	2	2	2			①日本②オランダ③イギリス、イタリア	初開催
16	1967	スペイン	マドリッド	11	218	20	5	7	2	2	1	1		①スペイン②日本③西ドイツ	5年振り9回目
17	1968	スイス	ベルン	14	249	20	6	2	5					①スイス②日本③韓国	初開催
18	1969	ベルギー	ブルッセル	15	260	23	9	2	4					①日本②スイス③西ドイツ	11年振り2回目
19	1970	日 本	東 京	15	274	30	17	4	3	2	2			①日本②西ドイツ、韓国、スイス	初開催
20	1971	スペイン	ヒホン	15	273	26	10	3	5	3	1	1		①日本②スペイン、スイス	4年振り10回目
21	1973	ドイツ	ミュンヘン	15	281	27	5	5	8	3	1			①西ドイツ②韓国③日本、スイス	12年振り2回目
22	1975	スペイン	マドリッド	17	291	26	4	7	5	3		2	1	①スイス②韓国③スペイン④日本	4年振り11回目
23	1977	オランダ	ユトレヒト	16	267	26	7	4	3	3	1			①韓国②西ドイツ③日本	11年振り2回目
24	1978	韓 国	釜 山	14	239	27	1	5	6	5		2	2	①韓国②スイス③オーストラリア他3カ国⑦日本	初開催
25	1979	アイルランド	コーク	14	276	28	7	8	1	2	1			①韓国②日本③スイス	16年振り2回目
26	1981	アメリカ	アトランタ	14	266	28	5	8	4	4	2	1		①韓国②日本③スイス、西ドイツ	初開催
27	1983	オーストリア	リンツ	18	309	28	4	5	4	8	1	3	1	①韓国②台湾③オーストリア④日本	初開催
28	1985	日 本	大 阪	18	307	34	11	8	4	8	5	2		①韓国②日本③台湾、スイス	15年振り2回目
29	1988	オーストラリア	シドニー	19	354	30	6		3	9	4		3	①韓国②日本③台湾他2カ国	初開催
30	1989	イギリス	バーミンガム	21	382	27	3	6	1	8	2	1	1	①韓国②台湾③オーストリア⑤日本	24年振り2回目
31	1991	オランダ	アムステルダム	24	411	26	4	2	2	9	3	1	1	①韓国②台湾③オーストリア④日本	14年振り3回目
32	1993	台 湾	台 北	25	434	27	2	6	5	9	2	3	2	①台湾②韓国③ドイツ④日本	初開催
33	1995	フランス	リヨン	28	474	28	4	3	1	9	3	2		①韓国②台湾③日本、ドイツ、スイス	初開催
34	1997	スイス	ザンクトガレン	30	519	29	2		4	8	2		3	①韓国②台湾、スイス⑧日本	29年振り2回目
35	1999	カナダ	モントリオール	33	625	34	6	3	2	9	4	1		①台湾②韓国③日本	初開催
36	2001	韓 国	ソウル	35	616	33	4	2	4	7	3	1	2	①韓国②ドイツ③日本、オーストリア	23年振り2回目
37	2003	スイス	ザンクトガレン	36	689	34	6	2	4	10	5	2	2	①韓国②ドイツ③日本、オーストリア	6年振り3回目
38	2005	フィンランド	ヘルシンキ	37	660	36	5	1	2	6	1		1	①日本、スイス、南チロル(イタリア)④ドイツ、フィンランド	初開催
39	2007	日 本	静 岡	46	812	51	16	5	3	13	5	2	1	①日本②韓国③フランス	22年振り3回目
40	2009	カナダ	カルガリー	46	845	45	6	3	5	13	1	2	1	①韓国②スイス③日本	10年振り2回目
41	2011	イギリス	ロンドン	48	925	45	11	4	4	13	5	2	1	①韓国②日本③スイス	22年振り3回目
42	2013	ドイツ	ライプツィヒ	52	986	45	5	4	3	20	3	3	2	①韓国②スイス③台湾④日本	初開催
43	2015	ブラジル	サンパウロ	59	1,189	45	5	3	5	16	4	2	2	①韓国②ブラジル③日本、中国、台湾、オーストリア、南チロル(イタリア)	初開催
44	2017	アラブ首長国連邦	アブダビ												初開催
45	2019	ロシア	カザン												初開催
46	2021	未 定													
合 計					14,468	956	218	125	108	208	66	34	27		

※第1回(1950年)～第10回(1961年)、日本は不参加・記録無し

2 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会

(1) 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会開催要領

(目的)

第1条 2023年の技能五輪国際大会の本県への開催招致に向けて、県としての技能五輪国際大会基本構想の策定について検討するとともに、国際アビリンピックについても、2023年頃の大会を招致することを念頭に、招致に向けた検討を行う、愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会(以下、「委員会」という。)を開催する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) 技能五輪国際大会基本構想及び国際アビリンピックの基本構想の策定のための検討に関すること。
- (2) その他、技能五輪国際大会及び国際アビリンピックの招致に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は、別表のとおりとする。

- 2 委員会に委員長を置く。
- 3 委員長は愛知県産業労働部労政局長が指名する。
- 4 委員長に事故がある時は、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(運営)

第4条 委員長は、委員会を招集し、主宰する。

- 2 委員は、やむを得ない理由により出席できないときは、自らが指名する者を代理として出席させることができる。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、愛知県産業労働部労政局産業人材育成課(業務委託先:株式会社アサツーディ・ケイ)において処理する。

(その他)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要領は、2016年11月14日から施行する。

(2) 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会委員名簿

区 分	氏 名	団体名役職
技能五輪 関係者	岡部 眞幸	職業能力開発総合大学校教授
	釜石 英雄	中央職業能力開発協会技能振興部長
	中西 義裕	一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会副会長
	西島 保	公益社団法人愛知県技能士会連合会理事長
	真下 和雄	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構愛知支部長
企画・広報 有識者	紫牟田 伸子	紫牟田伸子事務所代表
	福井 昌平	株式会社コミュニケーション・デザインング研究所代表取締役社長
	横山 陽二	名古屋外国語大学現代国際学部国際教養学科准教授
経済団体	柴山 忠範	愛知県経営者協会専務理事
	田中 豊	名古屋商工会議所企画振興部長
	森 浩英	一般社団法人中部経済連合会企画部長
行政機関	間所 陽一郎	愛知県産業労働部労政局長

(区分ごとに氏名五十音順、敬称略)

(3) 検討経緯

第1回委員会	[2016年12月12日]	:基本コンセプト・基本方針に関する検討
第2回委員会	[2017年1月20日]	:大会開催概要や競技・式典、各プログラム等の検討
第3回委員会	[2017年2月17日]	:基本構想(案)についての検討

2023年技能五輪国際大会 基本構想

2017年(平成29年)3月

[発行]

愛知県産業労働部労政局産業人材育成課技能振興・技能五輪グループ
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL. 052-954-6375(ダイヤルイン)

[製作]

株式会社アサソーディ・ケイ
〒105-6312 東京都港区虎ノ門一丁目23番1号 虎ノ門ヒルズ森タワー
TEL. 03-6830-3811(代表)

